

第七回「リパライン語を考える会」事前資料

今回のテーマ

第七回「リパライン語を考える会」では、前六回分を振り返る。これまでに確認された問題点を振り返り、リパライン語学の問題意識を醸成したい。

第一回 (機能語 i) まとめ

[事前資料](#) [議事録](#)

- 構文曖昧性が感じられたらiは入れるべきそう
- 構文曖昧性が無くてもスコープの方向がキモい(今回分かったのは動詞から遠ざかる方向に開いている接置詞句)ときは割とほいほい入りそう
- 動詞句(45番のjosxeer句)とか副詞句(3番malfiが出た。今使わねえよ!)とかにも結構出てきそう
- zu句をiでやるやつがまあまあ出てきたがlex Vをiで始めるやつが見当たらない
- il, ilsは絶対比較ではという説が出た。それに伴って比較の絶対性にグラデーションがありそうという話が出た。比較表現を深めなければならない。
- il<e le説を推していけ

第二回 (lex二連の禁) まとめ

[事前資料](#) [議事録](#)

1. la lex lexは格接辞を使えばセーフそう
2. eo lex lexはどうなんだろうなあ
3. コーパスが少なすぎて話にならん

第三回 (動詞連体形派生語尾 -erl) まとめ

[事前資料](#) [議事録](#)

1. **V-erl**
 1. -'iに来るもの
 2. (-'iが埋まっている場合)そうした結果できる**mors**
2. -erlはかなり曖昧性が強いという意識があるらしく、他の動詞派生語尾で表せる場合は避けられる傾向が見受けられるようである (特にV-erl e'iとしてまで-erlを使うことはない)
3. -erの方が-erlより有生性が高い傾向にあるが、例外も存在する

第四回 (-'sと-'iの省略規則) まとめ

[事前資料](#) [議事録](#)

1. 「〈一単語+動詞〉によるワンフレーズの前の-'sの省略」と「〈一単語+対格名詞〉によるワンフレーズでの-'iの省略」が可能
2. 動詞の前の(一単語の)副詞の前の-'sは省略可能だが、動詞の後の(一単語の)副詞の後の-'iは省略不可能。但しnivは例外
3. 動詞句にせよ対格名詞句にせよ一フレーズが三単語以上になる場合は省略できない
4. 動詞派生名詞については、より省略許容の条件が緩くなっている/省略可能なときに積極的に省略されると推測しうる

第五回 (接辞の解釈順 その1) まとめ

[事前資料](#) [議事録](#)

N/A

第六回 (接辞の解釈順 その2) まとめ

[事前資料](#) [議事録](#)

N/A